

中学校

平成 17 年 度

教育研究員研究報告書

総合的な学習の時間

東京都教職員研修センター

目 次

I	主題設定の理由	2
II	研究の概要	3
1	研究の仮説	3
2	研究の内容・方法	3
3	研究構想図	4
III	個に応じた課題の設定や追究活動の工夫（第1分科会）	5
1	研究を進めるに当たって	5
2	生徒用「振り返りシート」の開発	6
3	教員用「指導者支援シート」	7
4	個に応じた課題の設定と追究活動の工夫をするための指導計画例	8
5	実践事例	9
6	資料：総合的な学習の時間の全体計画、各教科等との関連表	13
IV	職場体験学習における、個に応じた課題の設定や追究活動の工夫 (第2分科会)	15
1	研究を進めるに当たって	15
2	総合的な学習の時間における職場体験学習の改善に向けた視点	16
3	職場体験学習を問題解決的な学習に組み入れた指導計画	17
4	実践事例	19
5	生徒の課題の変容	23
V	研究のまとめと課題	24

生徒一人一人が主体的に学び考える総合的な学習の時間の工夫 ～課題の設定や追究活動における効果的な指導・支援の在り方～

I 主題設定の理由

総合的な学習の時間が創設されて、早4年が経過しようとしている。この間、中央教育審議会答申「初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について（平成15年10月）」では、「学校において具体的な『目標』や『内容』を明確に設定せずに活動を実施し、必要な力が児童生徒に身に付いたか否かの検証・評価が十分行われていない実態」や、「児童生徒の主体性や興味・関心を重視するあまり、教員が児童生徒に対して必要かつ適切な指導を実施せず、教育的な効果が十分に上がっていない取組」を改善すべき課題と指摘している。また、学習指導要領の一部改正等（平成15年12月）では、「総合的な学習の時間のねらいとして、各教科、道徳及び特別活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすること」と通知している。

さて、21世紀を迎えた我が国の社会は、国際化、情報化、科学技術の発展及び少子化・高齢化等の進展が著しい。しかし、その反面では、地域・家庭の教育力の低下、学習意欲や就業意欲の低下、社会体験の不足、ニートの増加などの問題を抱えている。このような状況を踏まえ、東京都では、平成16年4月に東京都教育ビジョンを策定し、その中で「21世紀は、生涯学習社会の時代である。自らの資質・能力を生かし目標に向かって努力を重ね、生涯を通じて自己実現に努める生涯学習社会であり、その中で生きていくために必要な力を付けるのが教育の役割である。」と提言している。各校が展開している総合的な学習の時間は、「生きる力」をはぐくむという学習指導要領の基本的なねらいを実現する上で、極めて重要な役割を担うものとされており、総合的な学習の時間の充実が、東京都教育ビジョンの実現に大きくかかわってくるものである。今、改めて総合的な学習の時間の「目標」、「育てたい力」及び「具体的な取組み」などを再確認し、確かな実践をしていくことが求められている。

本部会では、まず子どもたちにとって今、最も必要な「生きる力」を育成する「総合的な学習の時間」についての指導上の課題を整理するため、基礎研究をはじめ、教育研究員所属校等における調査研究から始めることにした。その結果、総合的な学習の時間を担当する教員間の共通理解や連携を図ること、課題解決学習にとって「課題の設定」や「課題の追究活動」の場面における指導・支援を改善する必要性を感じている教員が多いことが見てきた。

そこで、それらの課題を解決することを目指して、研究主題を「生徒一人一人が主体的に学び考える総合的な学習の時間の工夫～課題の設定や追究活動における効果的な指導・支援の在り方～」と設定した。また、研究仮説を「総合的な学習の時間において、課題の設定や追究活動の場面で、教員が効果的な指導・支援を行えば、生徒一人一人が主体的に学び考えることができるであろう。」とし、2つの分科会を設置した。第1分科会では「個に応じた課題の設定と追究活動の工夫」、第2分科会では「職場体験学習における、個に応じた課題の設定と追究活動の工夫」について検証授業を重ねながら研究を深めることとした。そして、教員が効率よく共通理解を図れる教材の開発、「課題の設定」や「課題の追究活動」の場面において生徒に見通しをもたせることができる指導・支援の工夫等の研究に取り組んできた。

Ⅱ 研究の概要

1 研究の仮説

本研究を進めるに当たり、次のように仮説を設定した。

総合的な学習の時間において、課題の設定や追究活動の場面で、教員が効果的な指導・支援を行えば、生徒一人一人が主体的に学び考えることができるであろう。

2 研究の内容・方法

(1) 分科会の設置

「生きる力」の育成のために、総合的な学習の時間は大変重要なものであるが、なかでも「課題の設定」や「課題の追究活動」の場面は、生徒が自己を見つめ、自らの学習を深めていく力をはぐくむことのできる大切な過程である。しかし、指導する教員にとっては、指導・支援が難しい場面であることが各調査等から指摘されている。そこで本研究では、「課題の設定」「課題の追究」及び「まとめ」という学習段階のなかでも、特に「課題の設定」や「課題の追究」に注目した。そして、「個に応じた課題の設定や追究活動の工夫」と「職場体験学習における個に応じた課題の設定や追究活動の工夫」の2つの分科会を設置し、主題に基づき下記の内容について、研究を進めることにした。

① 第1分科会（個に応じた課題の設定や追究活動の工夫）

本分科会では、課題の設定及び課題の追究活動において、さらに効果的な指導・支援について研究を進めるために、各調査等で指摘されている課題を整理し、教員間の共通理解や連携を推進する点に着目した。研究においては、共通理解や連携のための手だてとなる資料を作成し、その有効性、効果的な使用方法及び使用場面等について検証授業を通して研究を進めることとした。

- ア 生徒用「振り返りシート」の開発と実践
- イ 教員用「指導者支援シート」の開発と実践
- ウ 全体計画の基本例の作成
- エ 知の総合化を図る各教科等との関連表の作成

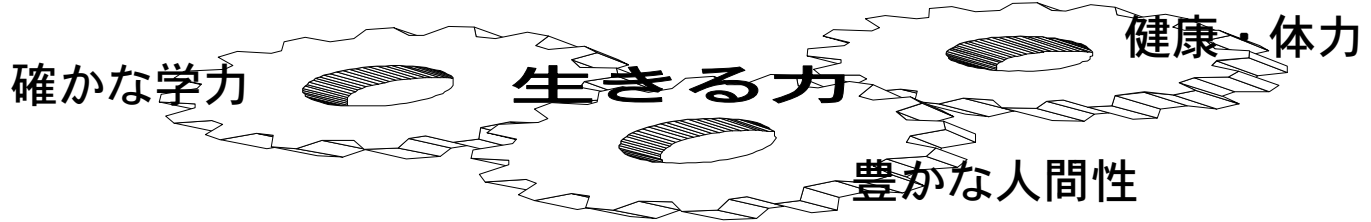
② 第2分科会（職場体験学習における個に応じた課題の設定や追究活動の工夫）

本分科会では、職場体験学習の場面を取り上げ、個に応じた「課題の設定」及び「課題の追究活動」の研究を進めた。職場体験学習は都内中学校の82.5%が実施しており、そのうち76.0%が総合的な学習の時間のなかで取り扱っているという現状（平成16年度中学校職場体験実施状況）に着目した。「総合的な学習の時間」における職場体験学習の実施例や課題の設定及び課題の追究活動における支援方法について、実態調査と実践授業を通して研究を行った。

- ア 職場体験学習の改善に向けた視点
- イ 指導計画作成例
- ウ ウェビング等を使った課題の設定時における工夫（ウェビング：p.15に詳細説明）
- エ 課題の追究活動における指導・支援の検討

3 研究構想図

<p>子ども・若者の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域・家庭の教育力の低下 ・学習意欲・就業意欲の低下 ・社会体験の不足 ・ニートの増加 	<p>学習指導要領改訂の基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自ら学び、考える力 ○特色ある教育、特色ある学校 ○基礎・基本の定着、個性を生かす教育 ○豊かな人間性、社会性、国際性 	<p>子どもを取り巻く社会環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済、社会のグローバル化 ・情報技術革命 ・地球環境問題 ・少子高齢化
---	---	--



<p>総合的な学習の時間の趣旨</p> <p>地域や学校、生徒の実態等に応じた</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 横断的・総合的な学習 ○ 生徒の興味・関心等に基づく学習 	<p>総合的な学習の時間のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 課題発見能力、思考力、判断力、問題解決能力の育成 □ 学び方、ものの考え方の獲得、自己の生き方の確立 □ 問題解決に向けての主体的・創造的態度の育成 □ 各教科、道徳及び特別活動で身に付けた知識や技能の総合化
--	---

<p>平成15年12月一部改正等、総合的な学習の時間の一層の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 生徒の学習状況に応じた教師の適切な指導 ◇ 趣旨・ねらいを踏まえた目標及び内容の設定 ◇ 各教科、道徳及び特別活動で身に付けた知識や技能の総合化 ◇ 学校における全教育活動との関連の下での全体計画の作成 ◇ 学校内外の教育資源の積極的な活用 	<p>各調査・資料</p> <p>「東京都教職員研修センター研究報告書」 P.5</p> <p>「東京都教育ビジョン」 P.2.15</p> <p>「職場体験・インターンシップ現状把握調査」</p> <p>「義務教育に関する意識調査」 P.5 ↳P.16</p> <p>「全日本中学校長会アンケート」 P.5</p>
--	--

研究主題 「生徒一人一人が主体的に学び考える総合的な学習の時間の工夫」
 ～課題の設定や追究活動における効果的な指導・支援の在り方～

仮説 総合的な学習の時間において、課題の設定や追究活動の場面で、教師が効果的な指導・支援を行えば、生徒一人一人が主体的に学び考えることができるであろう。

<p>第1分科会</p> <p>＜個に応じた課題の設定や追究活動の工夫＞</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 生徒用「振り返りシート」の開発と実践 ② 教員用「指導者支援シート」の開発と実践 ③ 全体計画の基本例の作成 ④ 知の総合化を図る各教科等との関連表の作成 	<p>第2分科会</p> <p>＜職場体験学習における、 個に応じた課題の設定や追究活動の工夫＞</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 職場体験学習の改善に向けての視点 ② 指導計画例の作成 ③ ウェビング等を使った課題の設定の工夫 ④ 課題の追究活動における指導・支援の検討
--	---

<p>実践事例1</p> <p>指導者支援シート、振り返りシートを使った課題の設定 ……①②④ P.9</p>	<p>実践事例2</p> <p>指導者支援シート、振り返りシートを使った課題の追究活動 ……①②④ P.11</p>	<p>実践事例3</p> <p>ウェビング等を使った課題の設定 ……③ P.19</p>	<p>実践事例4</p> <p>インタビューを使った課題の追究活動 ……④ P.22</p>	<p>公開授業</p> <p>改訂版指導者支援シート、振り返りシートを使った課題の追究活動……①②④</p>
---	--	--	--	---

研究のまとめと課題

Ⅲ 個に応じた課題の設定や追究活動の工夫（第1分科会）

1 研究を進めるに当たって

中学校3年生を対象とした調査で、総合的な学習の時間の実施後に生徒が身に付いた力として、以下の回答がある。

自分の力で調べたり活動したりするようになってきた	69.8 %
課題に対していろいろな考えをもつようになってきた	63.5 %
課題について自分自身で振り返るようになってきた	51.8 %

「総合的な学習の時間の成果に関する調査研究」（東京都教職員研修センター平成15年度紀要第3号）より

総合的な学習の時間に対して生徒自身が学習の成果を感じ、肯定的にとらえていることがわかる。ところが、「義務教育に関する意識調査」（文部科学省、平成17年6月）では、総合的な学習の時間を好きだとする中学生が46%で半数を下回るという指摘もされている。意欲的な取り組みが十分なされているとは言いきれない状況がある。

学習指導要領一部改正等のねらいは、『学ぶ意欲や、自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく解決する資質や能力などの確かな学力を育成し、生きる力をはぐくむ』ことを一層充実させることである。しかし、学習に対する意欲的な取り組みが十分とは言えない現状は、大きな課題であるといえる。このことに関連して、全日本中学校長会が実施したアンケート調査（内外教育 平成17年6月14日）では次のような指摘がある。「生徒の課題意識を育てる具体的な活動内容・手だてなどの工夫が必要である。」そこで本分科会では、生徒の学習活動を振り返る場面での課題を改善し、意欲を高める方法として、自己評価を活用し、自分の進むべき方向を探る「振り返りシート」の作成を考えた。

児童・生徒に応じた指導内容と方法について、教員間で話し合う機会が多くなった。	38.2%
教材作成などの準備に時間がかかり、負担が大きい。	84.6%
教員の力量や熱意に差があり、指導にばらつきが出る。	76.3%

「総合的な学習の時間の成果に関する調査研究」（東京都教職員研修センター平成15年度紀要第3号）より

また、中学校教員を対象とした総合的な学習の時間の成果について上記の回答がある。教員間で話し合う機会は多くなったが、準備の負担が大きく、指導にばらつきが生じやすいといえる。各教科等と総合的な学習の時間との関連を図っていくことと、教員間で学習内容や指導の連携を図っていくことが課題だと指摘されている。そこで、本分科会では教員が同一歩調で指導や支援を行うために「指導者支援シート」を作成することにした。9ページ以降の実践事例では、小・中学校の連携にも十分に配慮し、小学校の総合的な学習の時間での学習内容等を中学校での指導に反映する事例を紹介した。

さらに、知の総合化を図るためには、総合的な学習の時間の全体計画の作成が重要であると考え、まず、総合的な学習の時間と各教科等の学習等との関連をおさえながら、総合的な学習の時間及び各教科等それぞれの指導を充実させることができる「総合的な学習の時間と各教科等との関連表」を作成することにした。そして、13ページに示した総合的な学習の時間の全体計画例を作成した。

2 生徒用「振り返りシート」の開発

生徒自らが課題の設定や選択をする、学習計画を立てる、課題の追究活動の課程を振り返る、評価し活動の改善を図る、などの学習活動をするには、「生きる力」をつけるために大切なことである。生徒が達成感を高め、進むべき方向を探り決定できるようにするため、以下の点に留意した。

- ①「振り返りシート」を繰り返し活用することで、次の活動が明らかになる内容であること。
- ②「振り返りシート」を活用する場面は、効果的に設定すること。
 教員がそれぞれの状況に合わせ、どのような場面でも「振り返りシート」を活用できるように、次の場面における設問例を考えた。

指導案 p. 9、
10、12 参照

場面	振り返りシート設問例
課題設定	<ul style="list-style-type: none"> 課題を決めるとき、自分から進んで取り組んでみたい気持ちになれたか。 設定した課題を、どのように調べたらよいか考えたか。 課題を決めたとき、直接見たり体験したりしたことを思い出して考えたか。 友達や先生と相談して、設定した課題が興味・関心に合っていたか見直したか。
調べ学習	<ul style="list-style-type: none"> 調べたい事柄について、自分なりの予想を立てたか。 自分がその場に行き、見たり、聞いたり、確かめたりしたか。 調べるとき、本や新聞、図鑑やパソコン等を使って調べたか。 計画を立てて、調べることができたか。
課題追究	<ul style="list-style-type: none"> 課題や目標をはっきりさせて、取り組むことができたか。 課題について、自分から進んで取り組むことができたか。 興味や関心を大事にして進めることができたか。 調べているうちに出てきたたくさんの情報から、必要な情報を選べたか。 学習活動を振り返り、次の目標を立てることができたか。 調査方法を振り返り、計画を立てて進めることができたか。 進め方がわからなくなったとき、友達や先生に相談することができたか。
話し合い	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを持ち、相手に分かるように説明できたか。 お互いの課題について情報を交換し、助け合うことができたか。
人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> 言葉やあいさつなど、礼儀正しく接することができたか。 積極的にコミュニケーションをとることができたか。 他の人の意見や考えに興味をもって、話を聞いたり、質問したりすることができたか。 状況に合わせて活動し、マナーを身に付けることができたか。
発表	<ul style="list-style-type: none"> 考えたことや調べたことを、相手にわかりやすく発表することができたか。 役立つ資料をまとめ、相手に伝わるような発表資料を作ることができたか。 様々な考え方や、自分の知らなかったものがあることに気付いたか。 発表に対して質問したり、質問に明確に答えたりすることができたか。
教科等との関連	<ul style="list-style-type: none"> 教科等で学習したことを、総合的な学習の時間の中で活用できたか。 教科の学習の大切さをあらためて感じ、しっかり取り組もうと思ったか。
新しい課題の発見	<ul style="list-style-type: none"> 友達の活動を見て、良いところを取り入れようと思ったか。 自分自身の成長や身に付いた力に気付いたか。 社会や人のために、できることをしたいと思ったか。 新しい問題に出会ったとき、自分なりに解決できる自信が付いたか。 さまざまな考え方に気付き、自分の知らなかったものに興味をもてたか。 学習の結果、出てきた新たな疑問に、すすんで取り組もうと思ったか。 自分の将来について考えるようになったか。
自己評価	<p>今の段階で、自分の学習状況に対し評価をしてください。</p> <p>ア 今の方法で十分だ イ 何とか進めている ウ うまく進められない</p>



振り返ってみよう

8月から始まった「国際理解教育」も、今日で終わります。今日の学習で身につけたこと、考えたことをもとに、次に活かしていくことが大切です。あなたはどう感じたか、思ったか、気づいたか、どうやって話かもうなっていますか？下の問いに答えながら、今日の学習をまとめてみましょう。

1. 今回の学習を振り返って、自己評価をして下さい。評価基準は右の欄です。
 評価 1…ほとんどできていなかった 2…あまりできていなかった 3…一応できた 4…よくできた 5…とてもよくできた

評価項目	自己評価
自分の課題・目標をはっきりさせて学習に取り組むことができた	5
課題について自分から進んで取り組むことができた	5
国際理解の方向を振り返り、次に自分が何をすべきか判断できた	3
役立つ資料や情報をもとに、発表に生かすことができた	5
自分の考えや調べたことをわかりやすく発表することができた	3
留学生と積極的にコミュニケーションをとることができた	4
日本についてあらためて考えることができた	4
様々な考え方や、自分の知らなかったものがあることに気付いた	5
国際理解には何が必要か、国際意識を持つことができた	5

3. 「国際理解」には、何が必要だと感じましたか。
 [自分の考え(文化)が伝わらなくて、相手の考え(文化)に意味を添えず、理解しにくいことが多かったと感じた。]

4. 今回の授業「留学生が先生」を通して感じたこと、考えたことを書いて下さい。
 [ただ先生と話をした(文化)が大事なことだと気づいた。実際に自分自身が話をする機会が大事だと感じた。また、文化(文化)によって習慣や価値観が違うことが分かった。]

生徒用「振り返りシート」使用例

東京都教職員研修センター研究部研究課「総合的な学習の時間における学習状況の評価等に関する研究」参照

3 教員用「指導者支援シート」

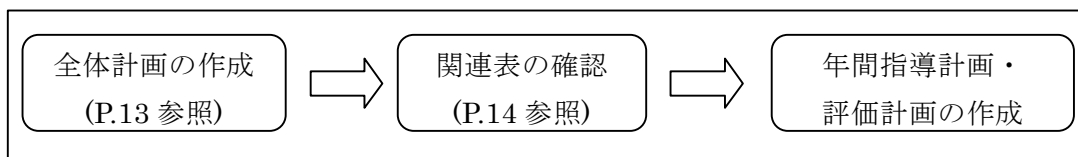
この指導者支援シートは、教員が生徒に対してどのような言葉かけをしたらよいかの例である。タイミングよく適切な言葉かけをすることによって、生徒の学習が、より深まっていく。このシートは、場面に応じて、どのような言葉かけをすればよいかを選択できるようにした。なお、生徒自身に考えさせるために、教員からの問いかけの形にした。

指導・支援の場面	No.	言葉かけの例
自己の生き方	1	興味・関心のあるものは何だろうか？
	2	将来の夢は何だろう？
	3	将来なりたいものが具体的にになっているのだろうか？
	4	夢を実現させるために何が必要だろう？
疑問・課題の発見	5	疑問に思っていることは、何だろうか？
	6	テーマに関連する課題にはどんなものがあるのだろうか？
	7	課題の答えの予想は何だろうか？
	8	課題を解決するために、何をする必要があるだろうか？
	9	この先、何をすると、課題が解決できるのだろうか？
情報活用能力	10	どんな人から話が聞けるのだろうか？
	11	どこで調べることができるだろうか？
	12	実際に試してみることがあるだろうか？
	13	どんなことを調べられるだろうか？
	14	どんな工夫をして調べられるだろうか？
	15	何を使って記録したらいいだろうか？
	16	事前に調べられることは何だろうか？
	17	疑問に思ったことは何だろうか？
	18	疑問は全て解決したのだろうか？
情報を処理・考察する力	19	どんなことを調べてきたのだろうか？
	20	調べたことの中で重要なことは何だろうか？
	21	調べたことの中で、共通点(あるいは違う点)は何だろうか？
	22	調べたことはどういうグループに分けられるのだろうか？
	23	表やグラフにしてみたらどうだろう？
	24	調べたことやこれまでの経験からどういうことが考えられるだろうか？
	25	なぜそういう結果になったのだろうか？
	26	どうしてそのように考えたのだろうか？
	27	違う立場の人は、どのように考えるのだろうか？
	28	わかったことを簡潔にまとめるとどうなるだろうか？
	29	調べたことを日常生活に生かすことができるだろうか？
情報を発信する力	40	何に取り組んだか伝わるだろうか？
	31	調べたことや聞いてきたことが十分に伝わるのだろうか？
	32	自分の考えがはっきりと伝えられるだろうか？
	33	聞き手により理解してもらうためには、どのような工夫をすればいいのだろうか？
	34	互いの共通点や考えの違っているところを確認できるだろうか？
学びのふりかえり	35	うまく問題解決できたと言えるだろうか？
	36	見方や考え方は深められたのだろうか？
学習への関心・意欲・態度	37	やりたいことに取り組んでいるだろうか？
	38	課題を解決しようとしているだろうか？
	39	困ったとき、人に尋ねたり、調べたりして解決しようとしているか？
	40	目的が何か言えるだろうか？
	41	立てた計画どおりに行動できているのだろうか？
	42	工夫しているところはどこだろうか？



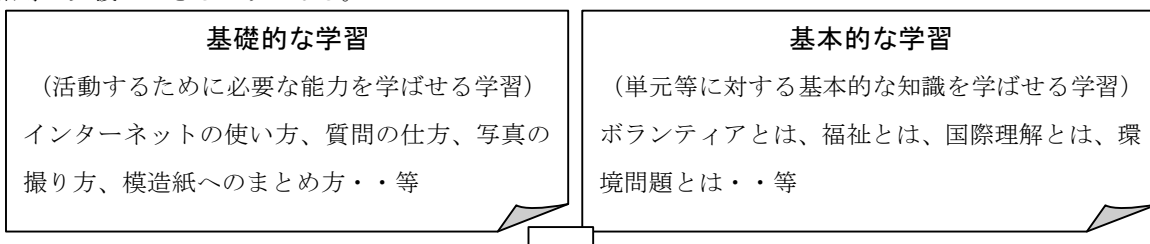
4 個に応じた課題の設定と追究活動の工夫をするための指導計画例

生徒が主体的に活動できるように、毎時間の授業を充実させるための例を示す。



基礎的・基本的な学習の充実

基礎的・基本的な学習は、各教科等において意識して指導・充実させ、総合的な学習の時間では、生徒自らが作業を主体的にできるようにする。こうすることによって、教員は、生徒一人一人により効果的な指導・支援ができるようになる。



課題の設定場面での指導

学習活動		指導と支援	評価の観点
展開	本時の目標や評価の確認	板書、ワークシート等を利用する。	
	作業開始	ワークシートに書き込みや記録をしながら、進めさせる。	
	振り返り(約30分後)	授業開始後約30分後に、今日の授業を振り返らせる。	学習活動を根気よく前進させていくことができる。 (関心・意欲・態度)
	作業の再開	振り返った事を基に、残りの作業を進めさせる。	
	自己評価と、次回の計画(振り返りシートの使用)	自己評価、次回すべき事を記録。ワークシートはファイリング。	多角的に考察することができる。 (思考・判断)
	ワークシートの提出	アドバイスを添えて返却	

振り返りシートの使用(1回目)
 振り返りシートは、授業の途中で行うことで、大きな効果が得られる。
 ①相談したこと・調べたこと・やったこと
 ②できなかったこと・やれるといいと思ったこと
 ③自己評価 (P.6 参照)

指導者支援シートを活用
 時と場合に応じて、効果的に生徒に言葉かけをしていく。 (P.7 参照)

振り返りシートの使用(2回目)
 ①自己評価
 ②次回の見通し
 ③教員からのアドバイス (P.6 参照)

5 実践事例

実践事例1 国際理解教育の課題の設定における指導と支援

(1) 単元名 「世界に生きる—今、私にできること—」(第1学年対象)

(2) 単元の目標

- ① 国際問題の調べ学習を通して、諸外国に関心をもち、そこで起こる問題を自分の問題としてとらえる国際人としての基礎を培う。
- ② 自ら進んで取り組み、学習を進める力を身に付けさせる。

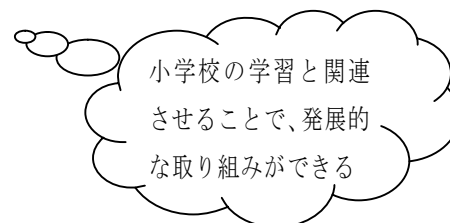
(3) 国際理解に関連する学習

(4) 本単元で育てたい力

授業内容		育てたい力	各教科で身に付けた力
道徳	内容項目4(10)人類の幸福	調べる	国語 読むこと …理解力「説明文」 図書室の利用法
社会	地理分野 世界の国々を調べよう		技術 情報分野 …パソコンの使い方
英語	読むこと 世界の言語	まとめる	国語 書くこと …作文、レポートの書き方 話すこと・聞くこと…討論ゲーム、スピーチ
国語	読むこと 朝のリレー		数学 数量分野 …関数(表・グラフ)
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> p. 14教科等との関連表を参考にして作成 </div>		伝える	美術 表現 …絵 デザイン
			国語 話すこと・聞くこと …スピーチ、主張する力 言語事項 …適切な語句、文の効果的な使い方
			英語 話すこと …スピーチ、発表
			美術 表現 …デザイン

(5) 実践授業の前後の流れ

- ① 小学校での総合的な学習の時間の内容を調査。第6学年で「国際理解」について学習していることを把握。
- ② 第1学年1学期から2学期前半にかけて、「国調べ」「人生の先輩に学ぶ会」「フィールドワーク」に取り組み、国際理解の基本を学習した。
- ③ 「世界に生きる—今、私にできること—」興味・関心のある事柄について課題を設定した。その課題について調べ、追究を深め、まとめる。



(6) 本時の内容

① 本時のねらい

ア これまでの学習を総合して、よりよい課題設定をすること。

イ 自らの活動を振り返り、学習を着実に深めていこうとすること。

② 本時の展開



振り返りシートによる自己評価

	学習活動	教員の指導・支援	評価の観点
導入	本時の流れ、ねらいを知る	○本時の流れ、ねらいを説明する。 ・この時間の目標を明確にする。 ・板書等を十分に活用する。	評価の観点 (平成16年度教育研究員研究報告書参照)

展 開	<展開1> キーワードから課題 の文章をつくる①	○ワークシートに関連する言葉を記入させる。 ・可能性のある言葉をなるべくたくさん書くように言葉かけをする。	今までの生き方、 体験からよりよい 課題設定をすること ができる。(思 考・判断)
	<振り返り> 振り返りシート記入	○作業を振り返り、自己評価させる。 ・何が足りないか、振り返りシートの項目から点検させる。	
	<展開2> キーワードから課題 の文章をつくる②	○再び課題を設定させる。 ・振り返りシートで見つけた足りない部分を意識して取り組ませる。 ・友達の見聞も参考にさせる。 ・書き出した言葉をいくつかつなげれば文章になることを知らせる。	
ま と め	課題の発表 振り返りシート記入	○できた課題を発表させる。 ・板書と口頭にて課題を発表させ、まだ文章化できない生徒へのヒントとする。 ○自己評価させる。 ・課題のどのようなところが変わってきたのかについて記入させる。	学習活動を着実に 深めていこうとし ている。(関心・ 意欲・態度)

③ 本時の評価

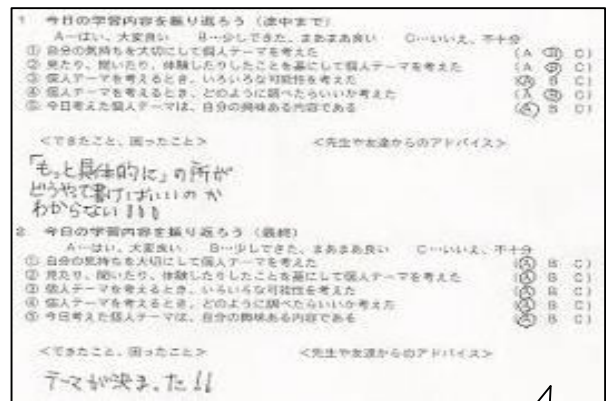
ア 今までの生き方、体験からよりよい課題設定をすることができたか。

イ 学習活動を着実に深めていこうとしているか。

(7) 実践のまとめと課題

① 実践のまとめ

ア 「振り返りシート」を2度使ったことにより学習が進み、よりよい課題を設定することができた。



生徒用「振り返りシート」

同じ項目で自己評価することによって、学習の深まりを実感できる。

○指導のポイントシート 20

2 個人テーマ決め その1

今回は「個人テーマ決め」2回のうちの第1回目です。
前回の授業では、半分くらいの生徒が自分の調べたい言葉（キーワード）をいくつか見つけることができました。
今日の目標は、前回選んだキーワードにさまざまな角度から言葉を肉付けし、テーマとなる文章を作ることです。

○ファイル返却 1分
→ 前回の振り返りシートで前回までにできたこと（キーワード選び、今日やること（個人テーマ決め）を確認

○プリント No2 配布&説明 4分
→ ・やりかたは前回選んだキーワードに、いろいろな言葉を付け足していくという方法。
・どんなことを調べるのかがはっきりわかるテーマをつくれれば、今後の学習がスムーズに進められることを生徒に知らせてください。
・生徒は「テーマ」と言われても、どんなものかわかりません。ですから簡単に言うと、「自分の調べたいことを文章にしたもの」という言い方が良いかもしれません。
・今後の学習の中でテーマが変わることも可能であることも伝えてください

指導項目、学習のねらい、生徒への言葉かけ等授業の流れに沿って書かれています。

指導のポイントシート

イ 「指導のポイントシート」(左下図)を使用した。これは「指導者支援シート」の応用で生徒へかける言葉のほか、そのタイミングや1時間の授業の流れなどを明記したものである。どのような視点で指導していけばよいかはわかるので、同様に確かな指導を深めることができた。

② 課題

授業中に十分に支援できなかった生徒については「振り返りシート」にコメントを書く等の適切な助言が必要である。

実践事例 2 国際理解教育の追究活動における指導と支援

(1) 単元名 「国際理解教育」

(2) 単元の目標

- ①外国人留学生との交流を通して外国の文化を理解し、尊重する態度を育てる。
- ②自国の文化や伝統を再認識し、理解を深めることで、自国の文化や伝統が外国からどのように見られているのか、客観的に考えさせる。
- ③互いの文化の違いに気付かせ、人間として共に生きようとする態度を身に付けさせる。

(3) 国際理解に関連する学習

(4) 本単元で育てたい力

授業内容		育てたい力	各教科で身に付けた力	
道徳	4 (10) 人類の幸福	調べる	国語	読むこと …理解力「説明文」 図書室の利用法
社会	地理分野 世界の国々を調べよう		技術	情報分野 …パソコンの使い方
英語	読むこと Let's Read 1 「A Trip to Mongolia」	まとめる	国語	書くこと …作文、主張文の書き方 話すこと・聞くこと…ディスカッション 対話力
			数学	数量分野 …関数(表・グラフ)
国語	読むこと 「ありがとう」と言わない重さ	伝える	美術	表現 …絵 デザイン
			国語	話すこと・聞くこと …スピーチ 主張する力 言語事項 …適切な語句、文の効果的な使い方
			英語	話すこと …スピーチ 発表
			美術	表現 …デザイン

p. 14 各教科等との関連表を参考にして作成

(5) 実践授業の前後の流れ

- 今回の「国際理解教育」では13時間の設定で、課題設定から発表・まとめまでを行った。
- ①資料等を使い、今までの経験を振り返ることで、国際理解について基本的な学習を行った。
 - ②留学生の母国別によるグループ分けを行い、グループ毎に担当を決めて支援した。
 - ③小学校での総合的な学習の時間を振り返り、その上で生徒が自ら課題設定をした。
 - ④自ら設定した課題を深め、追究活動を行った。
 - ⑤学習した内容をグループ毎に発表した。留学生との交流で、さらに理解を深めた。
 - ⑥国際的な視野をもった人間として活動する上で大切なことは何か、考えを深めた。

(6) 本時の内容

①本時のねらい

- ア 自己評価を通して、自らの活動計画と進行状況の違いに気付き、課題追究に向けて改善を図る。
- イ 課題の追究をする上で必要な資料を収集し、その資料を生かして主体的に自分の活動を進める。



生徒に言葉かけをする

②本時の展開

	学習活動	教員の指導・支援	評価の観点
導 入	グループごとに座り、総合ファイルにとじられたプリントを見て、今後の予定と今日の活動目標を確認する。 各自、自分の進め方を確認し、活動に移る。	今日の活動目標を確認し黒板に書く。 今までの活動と今後の見通しを各自のファイルで確認させる。 方向性に迷いのあるグループがあった場合、指導者支援シートを活用し、適切な言葉かけをする。	平成16年度教育研究員研究報告書「総合的な学習の時間」参照
展 開	進度に合わせて、パソコン室・図書室での調べ学習を始める。 模造紙や画用紙にまとめるなど、必要なものを作る。 p.6 参照	2～3名のグループで、分担内容を確認し、一人一人が活動できるようにする。 興味のあるものや発見したものを大事にした活動が行えるように、個に応じて言葉かけをする。 話し合いの中で、自分たちの考えているものを具体化できないグループには、指導者支援シートを使って、適切な言葉かけを行い、考えを深めさせる。 意欲的に取り組んでいる生徒、その取り組みが他の生徒への参考となる場合については積極的にほめる。	自ら資料収集し、それを生かして主体的に追究活動をおこなっている。(技能・表現) p. 7 参照
ま と め	振り返りシートに記入する。 今日できたことを記入することで自分の活動を知り、次の活動をはっきりさせる。 ファイルにとじ込み、次の活動に移る。	落ち着いて記入できる環境を整え、振り返るねらいを説明する。 今日の活動を肯定的にとらえさせ、進めていくことができた自分に気付かせる。 追究していく方向性を自分で考えることで、興味をもった活動につなげさせる。	活動計画と進行状況の違いに気付き、改善点について考えている。 (関心・意欲・態度)

③ 本時の評価

- ア 活動計画と進行状況の違いに気付き、見通しをもって改善しようとしたか。
- イ 課題の追究に参考となる情報を選択し、収集できたか。

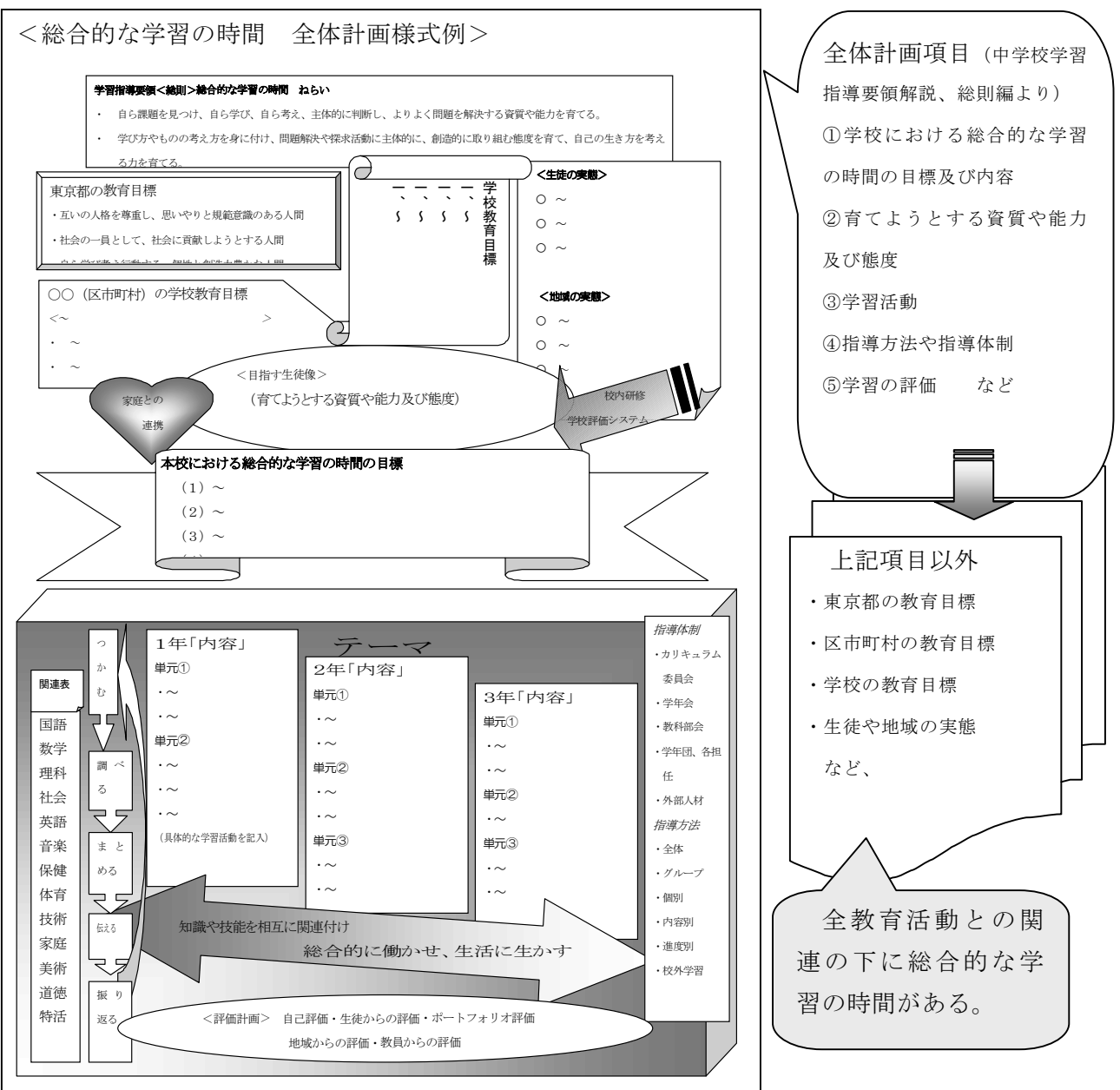
(7) 研究のまとめと課題

- ①最初に授業の目的をはっきりさせることで、主体的に学習活動を進めることができた。
- ②振り返りシートで自分の活動を確認し、方向性を見いだせた後は主体的な活動ができた。
- ③考えが進まなかったとき、教員による言葉かけが有効であった。
- ④授業時間の最後で振り返りを行うと効果的ではなく、手だてが必要である。

6 資料：総合的な学習の時間の全体計画、各教科等との関連表

(1) 総合的な学習の時間の全体計画

総合的な学習の時間は、各学校において創意工夫を生かした学習活動を展開する時間であり、この時間の学習活動は各教科等と相互に関連するものである。このため、目標や内容について、各教科等のような細かい規定をしていない。そこで、まず、学校全体で取り組むという教員の共通理解を図るために、全体計画を作成し、目的や内容を明確にする必要がある。全体計画により、総合的な学習の時間を独立した科目ととらえず、他の教育活動と密接に関連しているという認識も生まれ、関連表の意義も理解できる。その上で、各学年の年間指導計画を立てていくことができれば、より各教科等との関連性が生まれ、知の総合化を図ることができる。また、指導体制や学年を見通した発展性や系統性等も考えやすくなるであろう。そして、生徒への適切な指導と支援の工夫ができる。



(2) 知の総合化を図る、各教科等との関連表

凡例 課題設定 課題追究 まとめ 発信 まとめと発表 課題追究と発表

総合	つかむ 課題設定	調べる 課題追究	まとめる	伝える 発信	振り返る	総合
国語	話すこと・聞くこと ・発言・スピーチ・討論ゲーム・劇 俳句・古典	書くこと ・意見文・感想文・レポート 言語事項 ・文法・漢字・語い		読むこと ・説明文・小説・詩・短歌・		国語
社会	地理的分野 ・日本・世界地域の調査	歴史的分野 ・日本・世界	公民的分野 ・政治・経済・国際社会			社会
数学	数と式 ・数・文字式・方程式	図形 ・性質・証明・定理	数量関係 ・関数・確率			数学
理科	第1分野 物理 ・光・音・力・圧力・電力・エネルギー	化学 ・物質・水溶液・現象・化学変化・原子・分子・科学反応				理科
	第2分野 生物 ・植物・動物・細胞・生殖	地学 ・大地・気象・天体	総合 ・科学技術・環境・新素材・情報・自然・エネルギー			
音楽	表現 日本の歌曲 世界の歌曲 ・歌唱 ・演奏	鑑賞 日本の歌曲 世界の歌曲				音楽
美術	表現 ・絵 ・彫刻 ・デザイン ・工芸	鑑賞 日本の美術 アジアの美術 西洋の美術				美術
保体	体育分野 ・体づくり運動 ・器械運動 ・陸上競技 ・水泳 ・球技 ・武道 ・ダンス ・体育に関する知識	保健分野 ・心身の機能の発達と心の健康 健康と環境 ・障害の防止 健康な生活と疾病の予防				保体
技家	技術分野 ものづくり ・設計 ・製作 ・保守点検 ・エネルギー変換 ・栽培 情報 ・PCの操作 PCの利用 情報通信ネットワーク ・プログラミング	家庭分野 衣食住 ・栄養 ・調理 ・衣服 ・住居 家庭生活 家庭生活 ・幼児 ・家族 ・消費 地域				技家
外国語	聞くこと 話すこと ・コミュニケーション ・発表 ・役割演技	読むこと 書くこと ・手紙・報告文	外国文化の理解			外国語
道徳	主として自分自身に関すること 主として他の人とのかかわりに関すること 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること	主として集団や社会とかかわりに関すること				道徳
特活	学級活動 生徒会活動 学校行事					特活

○関連表の目的

総合的な学習の時間と、各教科等との学習内容の関連を把握して指導にあたることで、知の総合化を図る。

○関連表の使い方

総合的な学習の時間の指導計画を作成する際に、各教科等の学習内容との関連を確認する。どの活動段階に関連するかは、上記の文字囲いの凡例を参照する。実践事例1 (p9)、実践事例2 (p11) においても使用した。

表の作成にあたっては、見やすく利用しやすいものにするため、各教科等の学習内容の表記は大まかな単元にとどめ、関連の表記も特に関連強いものに限った。

小学校での学習内容を把握した上で

IV 職場体験学習における、個に応じた課題の設定や追究活動の工夫（第2分科会）

1 研究を進めるに当たって

東京都教育委員会では、平成17年度の東京都重点事業として、東京都青少年育成総合対策本部との共同事業で、中学生の職場体験学習「わくわく Week Tokyo」を実施している。現在の社会に見られる青少年の様々な課題を解決するために、将来の社会人である中学生に、望ましい社会性や勤労観・職業観を育成し、自立や社会参加を促す教育を一層充実させる目的がある。

このような背景のもとに、東京都内公立中学校651校で職場体験学習を実施しているのは、538校（約82.6%）である。そのうち、教育課程上、総合的な学習の時間において職場体験学習を実施している学校は493校（約75.7%）である。（平成16年度中学校職場体験学習実施状況、教育庁指導部）しかし、同調査によれば、実施されている職場体験学習のねらいは、勤労観・職業観の育成、進路学習全般への意欲向上、社会性やモラルの育成があげられており、特別活動や道徳の目標や内容と重なる部分が上位を占めているという現状がある。多くの中学校では、特別活動や長期休業中において実施してきた勤労体験活動や進路学習を、総合的な学習の時間の中で年間を通して計画的に、継続して取り寄せたいという現れであると考えられる。しかし、特別活動等において実施してきた職場体験学習の内容を、そのまま総合的な学習の時間に位置付けただけでは、本来の総合的な学習の時間の趣旨やねらいに応えた展開を実施することにはならない。

このことに関連して、進路指導啓発資料（平成14年3月、教育庁指導部）では、「総合的な学習の時間で実施する職場体験学習は、各生徒が異なる課題を設定し、個人でその課題を追究していきます。そのため、従来から行ってきた進路指導の学習内容をそのまま共通の課題として課し、総合的な学習の時間で行うことは、総合的な学習の時間の趣旨からも望ましくありません。」と示している。

こうした現状を踏まえ、第2分科会では、職場体験学習に対象をしぼり、「職場体験学習における、個に応じた課題設定や追究活動の工夫」について、研究を進めた。

本分科会では、以下の研究に取り組んだ。

(1) 職場体験学習の改善に向けた視点

教育研究員所属校でのアンケートによる実態調査を参考に、職場体験学習の改善点を明確にした。

(2) 指導計画例の作成

職場体験学習を中心とした指導計画の例を作成し、教員の指導・支援等とのかかわりや、各教科、道徳及び特別活動との関連について研究した。

(3) ウェビング（右上の解説を参照）等を使った課題の設定場面における工夫

生徒一人一人の課題の設定場面で、教員の指導・支援、教員間の共通理解がスムーズに行われるような手だての工夫と実践を行った。

(4) 課題の追究活動における指導・支援の検討

課題の追究活動においてどのような指導・支援が適切であったのか、職場体験学習の開

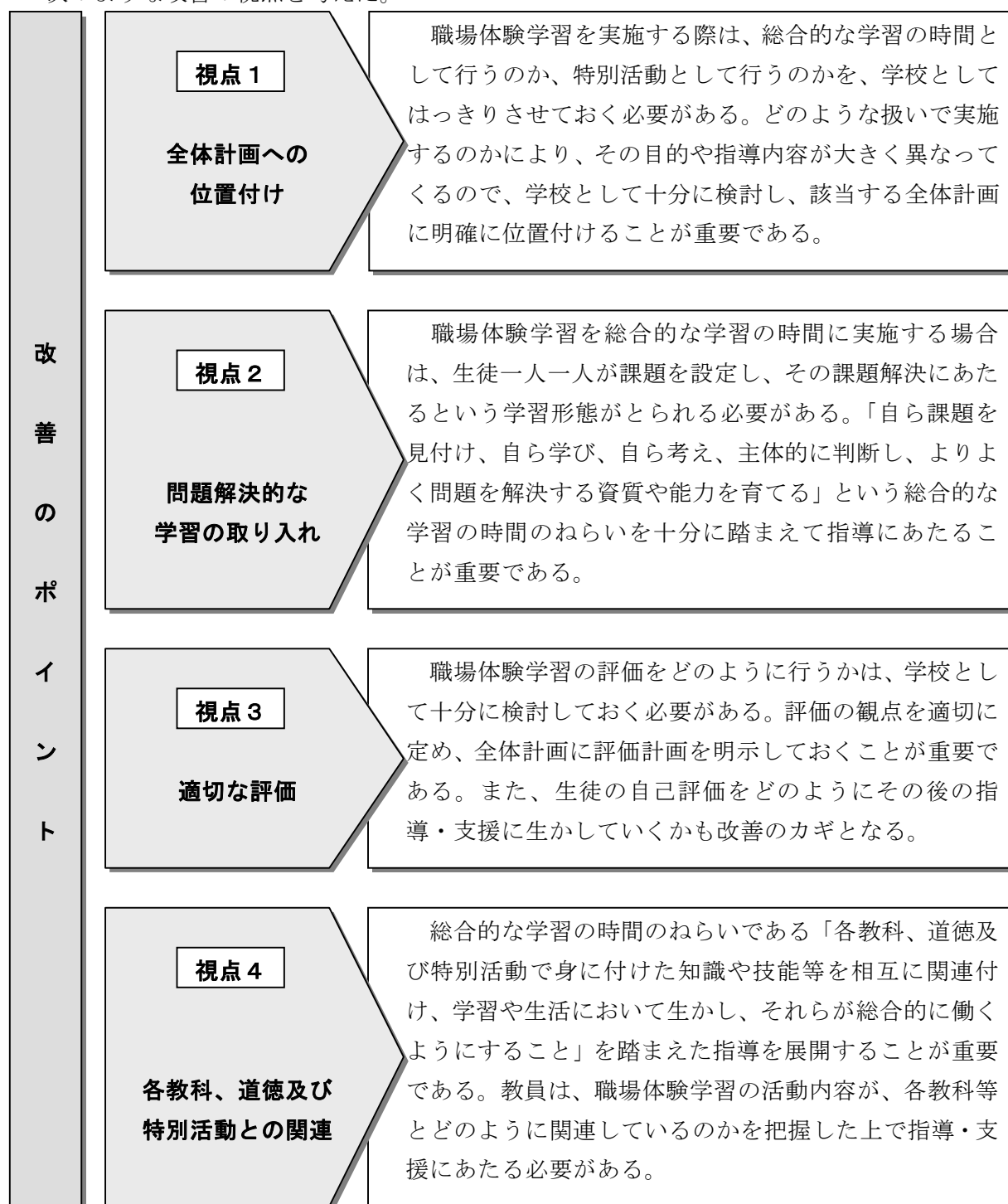
ウェビング・インターネットで使うワールド・ワイド・ウェブ（WWW）のウェブと同じ意味である。中心にテーマを置き、クモの巣状に学習課題を張り付けていくもの。（加藤幸次「総合学習の思想と技術」オピニオン叢書41 明治図書（1997年）より）

始時に設定した課題と、職場体験学習後の課題の変容を整理した。

以上の有効性を検証する手段として、「ウェビング、ヒントカード、アドバイスカードを用いた課題の設定」「課題の追究活動における指導・支援の工夫」を中心に実践を重ねた。

2 総合的な学習の時間における職場体験学習の改善に向けた視点

研究を進めるに当たって、教育研究員の所属校で行われている職場体験学習の実態から、次のような改善の視点を考えた。



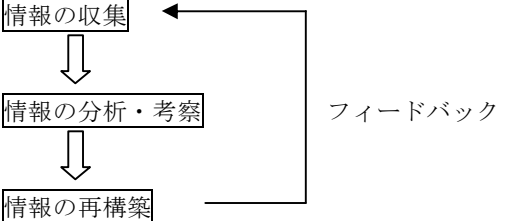
3 職場体験学習を問題解決的な学習に組み入れた指導計画

<職場体験学習の組み入れ方とそれぞれのねらい>

- 課題の設定の場面へ組み入れる：体験活動の中で問題意識を醸成し、課題の設定の手がかりをつかむ。
- 課題の追究の場面へ組み入れる：体験の場において、自分の課題について生きた情報収集や考察を行う。
- まとめの場面へ組み入れる：学習の成果を体験の場で発揮し、自らの課題をさらに発展させる。

* 課題の追究の場面に組み入れた場合 ■問題解決的な学習での教員の指導・支援 ◆職場体験学習での教員の指導・支援

過 程	問題解決的な学習の流れ	教員の指導・支援	各教科等の関連
<p>疑問の課題設定へ</p>	<p>ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらい、内容の理解 ・職場体験学習のねらいの理解 <p>課題設定のための問題意識の触発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師講演会 ・身近な働く人へのインタビューなど <p>課題の仮設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が職業・職種別でウェビングを行い、仮の課題を設定する。 <p>課題の修正、個別面談</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の設定理由を文章化し、発表する。 ・仲間や教員から助言を得る。 <p>課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が自分の興味・関心に基づいた課題を設定する。 ・自己評価、相互評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■問題解決学習における職場体験学習の位置付けをしっかりと理解させ、勤労観の形成を目的とした体験との違いを生徒に明確に付けさせる。 ■生徒の興味・関心を引き出すような手だてを準備する。上級生の職場体験学習の発表を聞かせることも効果的である。 ■自らの問題意識から、希望の職種を考えさせる。 ■ウェビングの進まない生徒にはヒントカードを使用する。 ■ワークシートへの記入や発表により、自らの課題をより明確にし、追究の見通しを立てさせる。 ■個別面談により、課題を追究する意義のあるものへと高める。アドバイスカードを使用する。 ■課題の設定には十分に時間をかける。どうしても課題を設定できない生徒に対しては、選択させるという手段もある。 ■評価することで、これまでの学習を振り返り、今後の学習の取り組み方について考えさせる。 	<p>特別活動</p> <p>第3章第1節</p> <p>(3)(エ)(オ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の進路適性の吟味（自分について知る） ・勤労観・職業観の形成 <p>社会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会や地域の問題について学ぶ
<p>職場体験学習事前学習</p>	<p>職場体験学習先希望調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題との関連で職場を希望する。 ・希望理由を書く。 <p>職場の決定</p> <p>インタビューのスキル獲得</p> <p>職場調べ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューに備え、インターネットなどで職場についての情報収集を行う。 <p>しおり作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しおりの読み合わせにより、体験のねらいと流れを理解する。 <p>職場別訪問準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電話で話す内容などを班毎に考える。 <p>自己紹介カード作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人が自己PRを載せたカードを作成する。 <p>前日指導（全体、職場別）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しおりを使って、心構え、欠席や事故の場合の連絡方法などを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆希望調査を出させる段階で、しっかりとした課題の追究意識をもたせる。 ◆職場への依頼の際には、従来の勤労体験学習との違いを説明し理解を得る。 ◆外部講師（新聞記者など）を招き、インタビューの方法やマナーについて学ばせたり、教員を相手にインタビューの練習をさせたりする。 ◆パソコンルームや学校図書館、地域の施設や人材など、校内外の学習環境を整備する。 ◆実践に即したあいさつや礼儀の指導 ◆安全指導 ◆決まり、マナーの指導 ◆電話のかけ方指導 ◆自己紹介カードには、デジタルカメラで撮った写真などを載せるなど、職場の方が生徒とすぐにコミュニケーションを取れるようにする。 ◆職場へアンケートの依頼 <p>*生徒の評価をしたくないと考えている職場体験先もあるので、外部評価を依頼する場合には、その趣旨等について十分に周知する。</p>	<p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューの仕方 ・敬語の使い方 <p>道徳</p> <p>内容項目</p> <p>2-(1)「礼儀、適切な言動」</p> <p>2-(2)「人間愛、感謝と思いやり」</p> <p>4-(8)「郷土愛」</p>

過程	問題解決的な学習の流れ	教員の指導・支援	各教科等の関連
職場体験学習	<p>課題の追究活動 1</p> <p>職場訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> 挨拶、自己紹介および時間や体験内容などを、職場の方と打ち合わせする。 課題についてインタビューをする。 <p>職場体験学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験の場で生徒一人一人が自らの課題について、情報収集や考察を行う。 しおりにその日の活動内容や課題に関する考察を記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆実施状況の確認 <ul style="list-style-type: none"> 電話による確認 巡回による観察、アドバイス 活動状況の記録（写真、ビデオ） *課題を念頭において体験することで、課題に関係する気付きが得られることを、巡回時に生徒に示唆する。また、座学にはない生きた情報を発見し、獲得するよう励ます。 ◆アンケートを回収し、外部評価として活用する。次年度への申し送り資料として生かす。 	<p>*各教科、道徳及び特別活動で今までに得た、知識や技能を体験の場で活用する。</p>
事後指導	<p>礼状の作成</p> <p>体験学習のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> しおりに感想を書き記す。 自己評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆いろいろな人の生き方に触れた生徒一人一人が、自らの考え方や価値観の変化に気付くような自己評価を工夫する。 ◆保護者にしおりを見せ、意見をもらう。 	<p>国語</p> <p>手紙の書き方</p>
課題の追究	<p>課題の追究活動 2</p> <ul style="list-style-type: none"> まとめに必要な調べ学習を行う。  <p>情報の収集</p> <p>↓</p> <p>情報の分析・考察</p> <p>↓</p> <p>情報の再構築</p> <p>*新たな気付きに応じたフィードバックを繰り返す中で、課題の追究を深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■課題の追究方法や手段を助言する。 ■ワークシートに調べた内容をまとめさせる。 ■パソコンルームや学校図書館、地域の施設や人材など、校内外の学習環境を整備する。 ■課題の追究活動が進む中、今までの課題に物足りなくなった生徒や、新たな課題を見つけた生徒がいた場合には、課題の見直しや課題の再設定が適切にできるようにする。 	<p>*各教科、道徳、特別活動で今までに得た、知識や技能を総合化する。</p>
学習のまとめと発展	<p>学習の成果をまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> まとめ方を考え工夫して発表物を作成する。 発表方法を工夫する。 発表原稿を作る。 発表リハーサルを行う。 <p>学習の成果を発信する</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習の成果を発表する。 発表を聞いた人と意見交換する。 他の人の発表を聞く。 <p>学習の成果の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ウェビングをもう一度行い、学習の当初に行ったものとの比較から、自己の成長を実感する。 <p>学習全体を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートや資料、記録、しおりなどで生徒一人一人が自らの学習活動全般を振り返る。 自己評価する。 <p>新たな課題を発見する</p> <p>今までの学びを自らの生き方へつなげる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■発表により、自らの学習内容についての理解がさらに深まるような形態を工夫する。 <発表の場として考えられるもの> <ul style="list-style-type: none"> クラス発表会、学年発表会 全校発表会（学習発表会、文化祭） 異学年に向けての発表会 学校のホームページ <発表形態として考えられるもの> <ul style="list-style-type: none"> レポートや模造紙にまとめて掲示 ポスターセッション パソコンによるプレゼンテーション 学校ホームページに掲載 <発表内容として考えられるもの> <ul style="list-style-type: none"> 課題および課題の設定理由 体験内容や感想 体験や追究活動で明らかになったこと 新たな課題やメッセージ ■個人内評価、総括的な評価により、生徒のよい点や可能性、進歩の状況を中心に評価する。 	<p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> スピーチの方法 ポスターセッションの方法 <p>道徳</p> <p>特別活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 職場体験学習を通じて得た、道徳的価値観、勤労観・職業観を、道徳や特別活動の中でもう一度取り上げ、その意味や大切さを、実感を伴ってより深く考えさせる。

4 実践事例

実践事例3 ウェビング、ヒントカード、アドバイスカードを使った課題の設定

(1) 単元名 「生き方を学ぶ職場体験学習」 学校テーマ「生き方」

(2) 単元の目標

第1学年2、3学期テーマ「生き方」

- ・テーマ「生き方」を意識した課題の設定、課題の追究活動を行い、自己の生き方を考える。
- ・「職場体験学習」の活動を通して、自ら進んで課題を設定し、課題を追究するための計画を立てることができるようにする。
- ・「職場体験学習」の事後学習（課題の追究活動）の内容をわかりやすくまとめ、発表することができるようになる。

(3) 授業の前後の流れ<課題の設定（8時間扱い）>

第1時間 仮の課題設定、設定の理由を考える。（ウェビングマップの作成）

第2時間 仮の課題（設定理由）を発表し合い、情報交換を行う。

第3時間 前時の学習内容を生かし、仮の課題（設定理由）に修正を加える。

第4時間 職場訪問（職場体験学習の1ヶ月前に実施）に向けて質問内容を考える。

第5時間 職場訪問のまとめを行う。

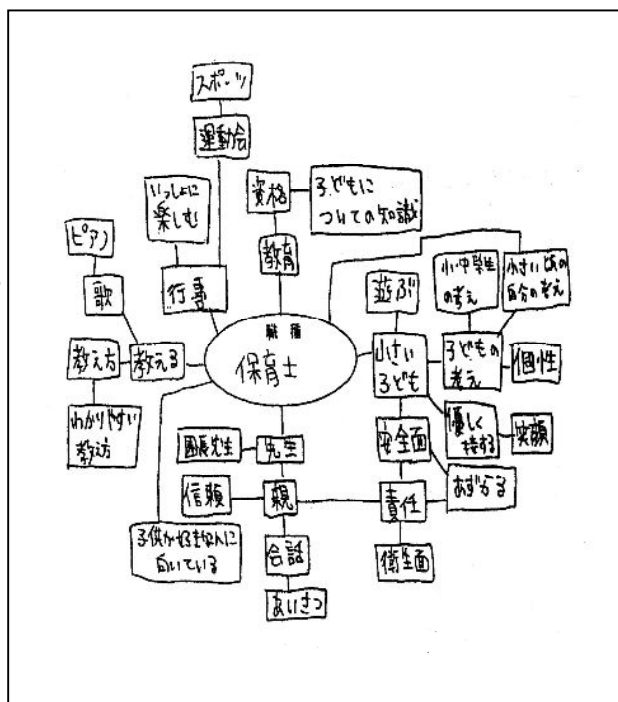
（課題の修正）

第6時間 個人ガイダンス

（現時点の課題の確認、アドバイス）

第7時間 職場体験学習のまとめを行う。

第8時間 課題を設定し、課題を設定した理由をまとめる。



生徒が作成したウェビングマップ

(4) 本時の内容

① 本時のねらい

- ・ウェビングマップを作成し、調べたいと思ったことを挙げる。
- ・仮の課題を設定し、課題を設定した理由をまとめる。

② 本時の展開（8時間扱いの第1時間）

	学習活動	教員の指導と支援	評価の観点
導入	本時の流れ、ねらいを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の流れ、ねらいについて説明する。次時には仮の課題と設定理由をゼミ内で発表して情報交換を行い、自己の課題に修正を加えていくことを伝える。 ・ヒントカード、アドバイスカードについて説明する。 	

<p>展開</p>	<p><展開1> 体験先の職種からウェビングマップを作成する。 (ワークシート)</p> <p><展開2> ウェビングマップを参考にし、気になったことや調べてみたいことを挙げてみる。(ワークシート)</p> <p>仮の課題を設定する。</p> <p>課題を設定した理由をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェビングマップについて説明する。黒板を使って例(見本)を示す。連想ゲームとの違いに留意させる。 ・ワークシートを配布し、一人一人にウェビングマップを作らせる。 ・ヒントカードを用いる。 なかなか学習を進めることのできない生徒に対してヒントを与える。 ・ウェビングマップの中から気になることば(キーワード)を挙げさせ、どんなことについて調べてみたいと思ったか、ワークシートにまとめさせる。 ・課題の設定の重要性を理解させ、「未来」「生き方」のテーマに沿った課題の設定ができるようにさせる。 ・なかなか課題を設定できない生徒を焦らせることがないようにする。 ・アドバイスカードを用いる。 生徒一人一人の学習の進行状況に合わせて渡していく。 ・課題の設定の際には、設定理由(動機、自分なりの仮説)もあわせて考えていけるようにさせる。 	<p>仮の課題の設定に向け、ウェビングを積極的に作成する。 (関心・意欲・態度)</p> <p>課題の設定を通し、自己の生き方を適切に考えより深く見つめようとする。 (思考・判断)</p>
<p>まとめ</p>	<p>自己評価を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの学習を振り返らせ、次の授業への動機付けを行う。 	

③ 本時の評価

- ・ウェビングマップを作成し、自己の興味や関心などから意欲をもって調べたいと思ったことを挙げるのができたか。
- ・自己の生き方につながる仮の課題を設定し、設定した理由をまとめるのができたか。

(5) 実践のまとめと課題

① まとめ

- ・ウェビングマップを作成することによって気になることば(キーワード)や調べたいことを短い時間で記述できていた。
- ・ヒントカードを手にしてからウェビングマップの広がりが見られる生徒が多かった。
- ・アドバイスカードを見ながら意欲的にワークシートをまとめていく生徒が多く見られた。
- ・ヒントカード、アドバイスカードの使用は、教員からのアドバイスが生徒一人一人の手元

「課題設定場面での
指導者支援シート例」

- ・テーマ「生き方」にあった課題の設定になっているか。
- ・調べようと思った内容は調べていくことが可能であるか。
- ・調べようと思った内容は、調べていく価値があるか。
(今後の自分自身の生き方につながるものになっているか)
- ・調べようと思った理由が明確であるか。
(自分なりの仮説を立てているか)

○調べていくときには、課題が変わってくることもあること、職場体験学習が終わるまで課題の設定を繰り返していくことを意識させる。

に残るので、学習のポイントが明確になり、学習を進める上で効果的であった。

② 課題

- ・ヒントカード、アドバイスカードの種類が多過ぎると、渡すときに時間がかかる。
カードの内容をより精選し、生徒の学習意欲が高まり、学習が深まっていくものにする必要がある。特に、学習がなかなか進まない生徒への手だてとして、カードの内容を十分に検討し、適切なものにする。

(6) ヒントカード、アドバイスカードの活用例について

① ヒントカード

ヒントカードは、課題の設定を行う際に、なかなか学習を進めることのできない生徒に対してヒントを与えるために使用する。今回は、ウェビングマップを作成するときに、うまくマップを広げていくことのできない生徒に対して与えた。

<p>「どうしてだろう」と思っていることはないか？ 「なぜだろう」と感じていることはないか？ 「楽しそうだな」と思ったことは何か？ 疑問や関心をもつことは大切なことです。</p> <p>その疑問や関心を課題にして、学習を進めていけると楽しくできそうですね。</p>	<p>あなたの体験する業種はどんな仕事？ 事業所でもっとこうすればいいのというあなたのアイデアはないですか？ もしあなたが社長だったら、どんなことを実行しますか？ どんな人を社員として雇いますか？ そんなことを課題にしてみるのもいいですね。</p>
--	--

② アドバイスカード

アドバイスカードは、課題の設定段階において、課題をより深めさせていけるように生徒一人一人の学習の進行状況にあわせてアドバイスを行うために使用する。今回は、学習の進行状況を3段階に分けてカードを作成し、課題を設定しているときに渡した。

評価の観点 「課題を発見する力」

- 評価規準
- 自らの生き方に関わる課題を設定することができる
 - 追究する意義や価値のある課題を設定することができる
 - 課題を調べようと思った理由が明確である

◇ 調べたい内容が具体的に挙がり、適切な課題を設定している生徒に対して、自分の生き方との関連を意識させ、仮の課題についても考えさせる。

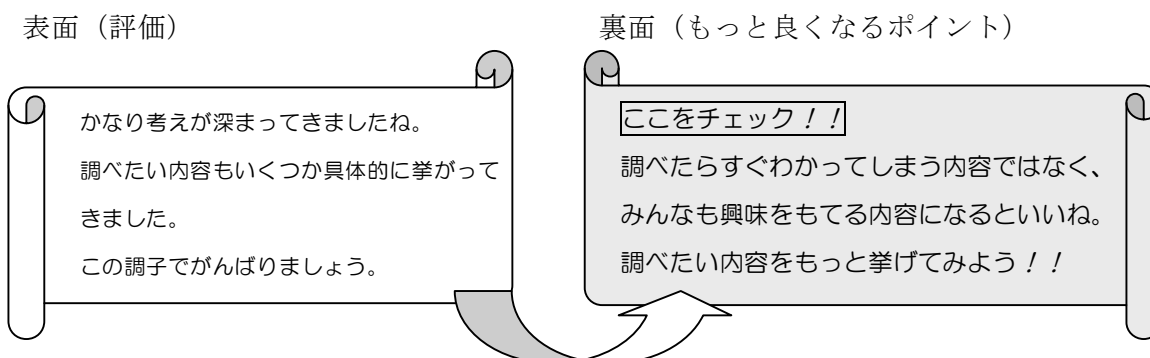
表面（評価）

面白そうな課題が見つかりましたね。
これからの研究がとても楽しみです。
時間をかけて、いろいろな角度から
研究を深めていきましょう。

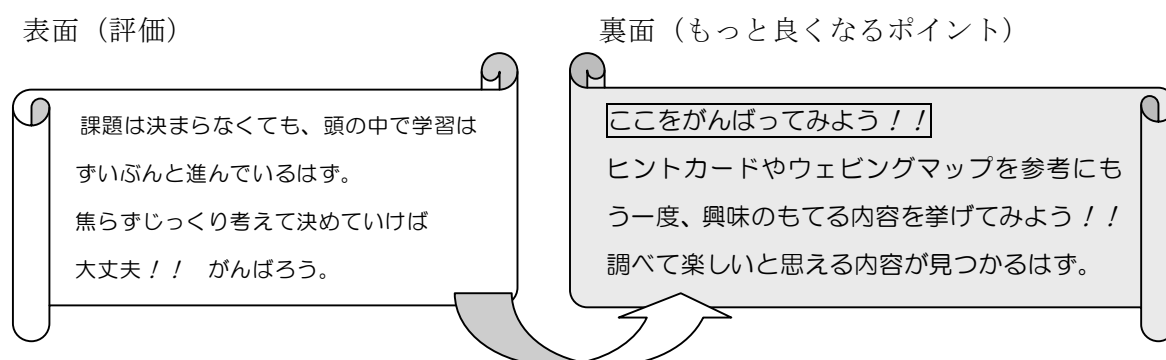
裏面（もっと良くなるポイント）

もっといいものに！！
これからの自分の生き方につながる課題になるようにがんばろう。調べようと思った理由に自分なりの仮の課題が入るといいですね。

- ◇ 課題の設定の方向性が正しい方向に向かっている生徒に対して、さらに追究する価値のある課題となるよう、生徒に自らを高めさせる。



- ◇ 課題が見つからない、または見当違いの生徒に対して、継続して学習に取り組める意欲を引き出させる。



実践事例4 追究活動における教員の指導・支援

総合的な学習の時間における学習状況の評価等に関する研究（平成14年度研究東京都教職員研修センター研究部研究課紀要第2号）によると、追究活動の場での支援のポイントとして、「人と接するときの基本的なマナーについて指導する」「多様な追究方法を例示、選択できるようにする」「既得の経験・知識・技能が活用できるように助言する」などの方法が効果的であるとしている。したがって、第2分科会では下の項目のような指導・支援が有効であると考え、実践した。

- ① 「人と接するときの基本的なマナーについて指導する。」ための支援
 - ア 新聞記者を招き、有効的なインタビューの仕方の指導を受ける。
 - イ 教員を相手にインタビュー練習を行う。
- ② 「多様な追究方法を例示、選択できるようにする。」「既得の経験・知識・技能が活用できるように助言する。」ための支援
 - ア 課題を念頭において体験することで、課題に関係する気付きが得られることを教員が職場体験学習先を巡回するときに生徒に示唆する。

職場体験学習後の生徒を対象とした調査（A中学校74名、B中学校136名、計210名）では、94%の生徒が新聞記者の人に少人数で講義を受けたことを職場体験学習先でのインタビューに役立ったと答えていた。また、課題追究方法では、80%の生徒が職場で見

聞きしたことを、大いに活用したと答えていた。さらに、98%の生徒が常に自分の課題を意識して体験を行ったと答えていた。この調査より、体験先でどのようにインタビューするとよいかなど具体的な方法を習得していること、また、生徒が設定した自らの課題を意識しながら体験することが有効であると確認できた。



インタビュー練習

5 生徒の課題の変容

指導計画例 (p. 18~19) で示しているように、課題の設定→課題の追究→まとめという形で職場体験学習を進めていった。その過程で、生徒の課題意識の変容を調べた。

	職場体験学習先	職場体験学習前の課題	職場体験学習後の課題の変容
生徒 A	高齢者施設	医師の資格	高齢者から見た自分の町、バリアフリーの現状 ←
生徒 B	高齢者施設	高齢者施設の仕事	介護職員になるために、身に付けること ←
生徒 C	スイミングスクール	市民プールの施設	水の管理、自分にできること ←
生徒 D	建設業	大工さんの仕事内容	今から自分の何を磨けば大工さんになれるか
生徒 E	パン販売店	パンの歴史	パンの作り方

テーマである「生き方」を意識した課題の設定、追究活動を行い、自己の生き方を考えることができた生徒

上記の生徒 A、生徒 B、生徒 C は、課題を調べていく中で、自分はどうかかわっていくか、何ができるだろうか、というところまで課題の内容が広がり、総合的な学習のねらいにもある自分の生き方を考えていくという所まで到達している。生徒 D は自分の進路について考えが深まっていった。また、生徒 E はパン作りを体験し、もっと調べたいという気持ちになったのだが、自分の生き方を考えるまでは行き着いていない。ここに示した例は一部ではあるが、生徒全員の課題の変容を整理すると、自分の生き方を考えるまで課題が変容していった生徒は約20%であった。生徒にとって初めての経験であり、新鮮な感動が生まれることが多い。この驚きの感情を大事にさせ、例えば「自分の立場だったらどうするの」「あなたなら何ができるの」など、常に自分の生き方や考え方に戻させるような、教員の言葉かけや支援が大切である。

V 研究のまとめと課題

本研究は、総合的な学習の時間における、個に応じた課題の設定や追究活動の工夫、職場体験学習における個に応じた課題の設定や追究活動の工夫の2点について研究を進めてきた。基礎研究では、過去の教育研究員や教員研究生の共同研究等が発表してきたことについても、今後の研究に生かすようにしてきた。

1 研究のまとめ

(1) 個に応じた課題の設定や追究活動の工夫（第1分科会）

① 生徒用「振り返りシート」、「指導者支援シート」を開発した。

これらの活用方法として、生徒用「振り返りシート」では、授業の途中で生徒に振り返らせ、その後の活動の目安を付けることが効果的であることがわかった。これによって、1単位時間の中で、生徒が主体的に取り組めるようになった。

また、「指導者支援シート」では、教員が生徒に問いかける形式にしたことで、生徒自身が考えを深められるようになり、教員の適切な指導・支援が行われるようになった。

② 総合的な学習の時間と教科等との関連をおさえ、全体計画を作成した。

学習指導要領の一部改正等に基づき、教育研究員の所属校における全体計画を見直し、各教科等との関連をおさえ、総合的な学習の時間の全体計画を作成した。また、知の総合化を図る各教科等との関連表を作成することによって、各教科の関わりを意識しながら指導にあたることができた。

③ 教員の共通理解を図り、指導を充実し、生徒が自分の考えを深めるようにした。

指導の流れを示した「指導のポイントシート」を作成することによって、教員間の共通理解が図れ、同一歩調で指導できた。教員の共通理解を深め、生徒一人一人に応じた指導・支援を行うことができた。

(2) 職場体験学習における個に応じた課題の設定や追究活動の工夫（第2分科会）

① 職場体験学習の改善点を明確にして、総合的な学習の時間の指導を深めた。

総合的な学習の時間に実施する職場体験学習の指導計画例を作成し、指導・支援の方法や各教科、道徳及び特別活動との関連を明確にして、指導に当たった。生徒が職場体験学習中に、自らの課題を意識しながら体験活動に取り組む工夫が重要である。

② 課題の設定場面で、いくつかの手法を実践し、それらの有効性を検証した。

ウェビングを利用することにより、テーマの多面的な見方が広がり、課題の設定に有効であった。ヒントカード、アドバイスカードの利用により、学習の遅れがちな生徒の意識が変容し、意欲的に学習に取り組ませることができるようになった。

2 課題

総合的な学習の時間の今後の課題として、次のことがある。

(1) 学習指導要領の一部改正等の趣旨を生かし、「知の総合化」が図れるような総合的な学習の時間の全体計画、年間指導計画の一層の改善・充実が必要である。

(2) 本部会では、「課題の設定」、「課題の追究」の場面における研究を深めたが、「まとめ」の場面における研究が必要である。

平成17年度 教育研究員名簿（ 中学校・総合的な学習の時間）

	地 区	学 校 名	氏 名
第1分科会	杉 並 区	杉 森 中 学 校	新 堂 貢 二
	板 橋 区	板 橋 第 三 中 学 校	飯 塚 美 南 子
	府 中 市	府 中 第 四 中 学 校	足 立 恵 美 子
	小 金 井 市	小 金 井 第 二 中 学 校	平 林 優 子
	東 村 山 市	東 村 山 第 六 中 学 校	◎平 谷 範 士
第2分科会	新 宿 区	牛 込 第 三 中 学 校	水 谷 実 岐
	練 馬 区	開 進 第 一 中 学 校	坂 内 さ ゆ り
	江 戸 川 区	葛 西 第 三 中 学 校	角 孝 彦
	東 大 和 市	第 四 中 学 校	平 山 公 紀
	東 大 和 市	第 五 中 学 校	○望 月 伸 一

◎世話人 ○副世話人

担当 東京都教職員研修センター統括指導主事 大野 恵一郎
指導主事 五十嵐 浩子

平成17年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録
平成17年度 第12号

平成18年1月16日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14
電話番号 03-5434-1974

印刷会社名 株式会社 今 関 印 刷